

向井潤吉

民家の美
風土に生きる造形

五十二年
潤吉

《春映(岩手県上閉伊郡宮守村)》1976年

1997年4月5日[土]—6月29日[日]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日—毎週月曜日(休日にあたる場合は翌日)

観覧料—一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

民家の美 風土に生きる造形

日本の風土の中ではぐまれてきた草屋根の民家は、おのおのの地方の環境によって、それぞれ独特な構造やかたちをつくってきました。民家の構造やかたちは、風土と人の営みによって、長い歳月を経ながら形成されてきた、自然と人知による造形と言うことができます。

今日において、現存する草屋根の民家はその数を減らし、その姿は、私たちの心に郷愁とも言える心情をしばしば喚起することになり、今や日本の原風景というイメージの一部になっていると言えます。そして同時に、民家を取りかこむ美しき日本の風土は、とりわけ戦後において、加速度的に減少を続けてきました。

こうした民家を含んだ風景は、いわゆる田園という言葉や表現に集約されますが、それぞれの地域において、その風土や生活、土地に育った産業は異なり、その結果、民家の構造とその外観はさまざまな点で差異を示しています。

戦後まもなくから始まった、向井潤吉先生の民家をもとめる旅は、40数年間という長い歳月を重ねることになり、そこに生まれた数々の作品は、先生が若き日から培ってこられた確実で的確な写実力によって、力強くみずみずしい民家の輝きと、美しい日本の風土、風景を今もお伝えています。

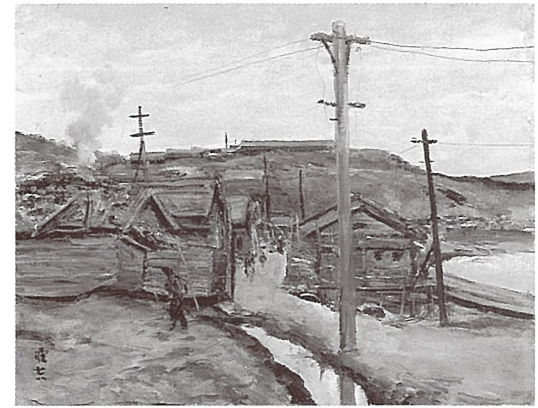
本展では、向井先生がその絵筆によって描きとめてこられた民家作品の魅力や、油彩画、素描作品によりご紹介いたします。



《田麦俣にて(山形県東田川郡朝日村田麦俣)》1963年



《遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城)》1986年



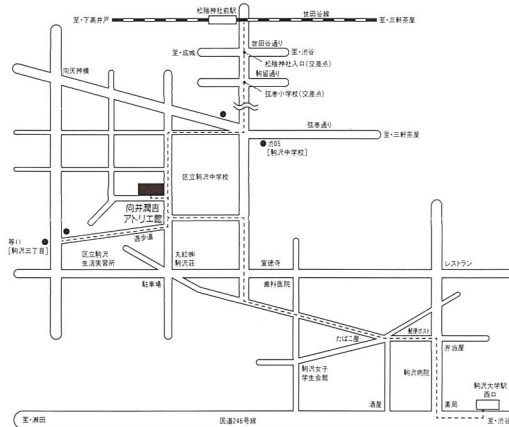
《春遠き町》制作年代不詳



《御代宿初秋(福島県郡山市湖南町三代)》1965年



《道ばたの旅籠屋(福島県)》制作年代不詳



●最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線【駒沢大学】 駅西口 下車/徒歩10分
東急世田谷線【松陰神社前】 駅 下車/徒歩17分

東急バス (流05) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (等11) 祖師谷折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車/徒歩3分

東急バス (流11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

東急バス (流13) 渋谷～砧本村 【駒沢大学駅前】 停留所下車/徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL 03-5450-9581